

※網掛けが付いているものは、重点項目としている取組です。

基本目標	基本方針	基本施策	取組No.	取組名	関連する部署	取組内容	平成30年度実施状況（平成31年3月末時点）
1 区民が主役の地域づくり	1 区民が主役の地域活動を応援します。	1 地域福祉活動の更なる発展	1	子育てグループへの支援と交流会の実施	地域ケア推進担当 地域支援担当 保育所等・地域連携担当	子育てグループ等の情報を収集し、子育て中の区民へ情報提供する。また、麻生区社会福祉協議会において子育て関連グループ交流会を実施し、グループ同士の交流を深めていく。	【地域ケア推進担当、保育所等・地域連携担当】子育てグループの活動時に、遊戯指導や保育などのボランティアを派遣する人材バンク事業は、122名の派遣をし、活動支援につなげた。また、子育てサークル等交流会を7月に開催し20名の参加があったほか、社会福祉協議会による同様の交流会が10月に開催された。 【地域支援担当】保健師、栄養士、歯科衛生士等が子育て交流広場、子育てサロン等に出向き、健康教育、育児相談を実施している。平成30年度は13か所の子育て交流の場で健康教育・育児相談を行った。
			2	介護予防グループへの支援	地域支援担当 高齢・障害課	地域で自主的に介護予防活動を行っているグループに対して、介護予防に関する知識向上のための支援を行い、グループの自主性・継続性を助長する。	【地域支援担当】区内の介護予防グループに対して運営協力、相談、出張健康教育など保健師、栄養士、歯科衛生士が実施している。平成30年度には52団体に支援を行った。 【高齢・障害課】地域で開催するサロンに参加（7月まで月1回）し支援を行った。9月以降は運営方針等の作成について支援を継続していく。
			3	麻生市民交流館やまゆりの活用促進	地域振興課	麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」を市民活動の区の拠点とし、地域福祉活動の場として有効に活用する。 NPO法人あさお市民活動サポートセンターによる主体的な運営により、市民自治を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動を行っている利用登録団体に活動の場や交流の場を提供。</li> <li>週に2回、市民活動相談窓口を開設し、新しく市民活動を始めたい等の相談を受付けた。</li> <li>区内の団体を横断的に紹介できるように、麻生市民館、麻生区社会福祉協議会と連携し、「市民活動団体検索サイト」を運営。秋には、地域デビュー相談窓口PR強化月間として月4回程、サボセン、社協、生涯学習支援課、地域振興課が協力し、PRを実施。</li> <li>健康づくり講座、イベント等開催を通じて、地域の仲間づくりや地域と繋がる機会を提供した。</li> <li>区民の新たな地域デビューを促すため、市民活動団体の情報発信冊子となる「あさおナビ2019」を1,000部発行（H31.3月）。</li> </ul>
			4	地域交流会の促進	地域支援担当 衛生課	地域の交流・仲間づくりを目的とした会（多世代交流、カフェ、サロン等）について、立ち上げから運営、活動全般に対して情報提供等支援する。食品を提供する際は、食品衛生に係る指導・助言する。	【地域支援担当】小地域において多世代交流、サロン、認知症カフェなどの立上げ支援を実施し、各関係者と連携し、地域の交流、仲間づくりを推進している。 【衛生課】食品の取り扱いに関する相談に対して、適切に助言を行い活動を支援した。
			5	地域マネジメントの推進	地域支援担当 地域ケア推進担当	地域づくりを推進するため、多様な主体と連携し、自助・互助の仕組みづくりを進める。また、地域の情報をまとめた「地区カルテ」を随時更新し、地域づくりに関する情報の共有を図る。	平成29年度に田園調布学園大学と区民と区と協同で作成した地域自己診断ツール「ちいきのちからシート」が、地域づくりを推進する上でより有効なツールとなるよう、田園調布学園大学、地域包括支援センターや麻生区社会福祉協議会と検討し改良を重ね、地域で使用を開始した。「地区カルテ」については、区内の町会・自治会に対しヒアリングを実施し（106町会中85町会から回答）、地域の現状や課題を確認し反映した。今後、統計データや地域資源情報についても随時更新し、関係機関や地域と情報を共有し地域づくりの推進を図る。
	2 区民の健康づくりの推進	6	小地域での健康づくりの推進	地域支援担当	地域に出向き、区民や地域活動グループの状況を把握し、各地域の特性に合った健康づくりに関する情報を提供することで、より有効な普及啓発を行い、健康づくりを推進する。	田園調布学園大学や地域包括支援センター等と連携をして地域に出向き、「ちいきのちからシート」を地域ケア圏域会議等を活用して実施し、地域課題の共有と今後の取組についての話し合いを進めている。また各地域で健康教育等を行い、健康づくりの普及啓発、健康づくりを推進している。	
		7	公園de健康づくり事業	地域支援担当	身近な公園を利用して、定期的にストレッチ体操やウォーキングを実施し、生活習慣病や介護の予防を図る。	公園ウォークは区内6か所の公園「山口白山公園」「王禅寺中公園」「万福寺さとやま公園」「虹ヶ丘公園」「栗平東公園」「下麻生花島公園」で地域のボランティアが主体となって継続実施している。公園体操は6か所の公園「千代ヶ丘第二公園」「片平中村通公園」「片平二丁目公園」「南黒川第一公園」「岡上第2公園」「片平中町遺跡公園」で運動普及推進員が主体となって継続実施している。	
		8	健康づくり、介護予防に関する普及啓発（講演会等）の実施	地域支援担当 高齢・障害課	健康づくりや介護予防に関する講話・実技指導を受ける機会を設けるとともに、健康情報についても随時提供する。	【地域支援担当】麻生区医師会の協力により、健康づくり、介護予防に関する講演会を3回実施した。 平成30年11月1日（木）午後「緑内障と糖尿病網膜症」47人参加。 平成30年12月12日（水）午前「糖尿病と脳血管疾患」20人参加。 平成31年1月31日（木）午前「難聴とめまい」81人参加。 【高齢・障害課】オアシスランドのサロン活動において健康づくりについての情報提供等をおこなった。窓口での相談対応において必要な情報を提供している。	

第5麻生区地域福祉計画進捗状況

※網掛けが付いているものは、重点項目としている取組です。

基本目標	基本方針	基本施策	取組No.	取組名	関連する部署	取組内容	平成30年度実施状況（平成31年3月末時点）
1 区民が主役の地域づくり	2 地域福祉活動の担い手の育成を推進します。	1 地域福祉活動を担う人材の育成の推進	9	食生活改善推進員の育成	地域支援担当	食生活改善推進員養成教室の開催や学習会を行うことにより、食生活を通して地域の健康づくりを推進する人材を育成する。	平成30年度は、7月20日・7月26日・8月2日・8月9日に食生活改善推進員養成教室を開催し、8名が修了した。また、地区に分かれての推進員の活動において、学習会（月4回）や役員会（月1回）で、地域で食育活動を行うために必要な食に関する情報提供や調理実習の支援を行った。
			10	地域人材の発掘と育成	地域支援担当 生涯学習支援課	認知症サポーター養成講座、識字ボランティア研修、保育ボランティア研修、生涯学習相談員養成講座を実施。また、地域人材を市民活動等につなげる取組みとして、関係各課、関係機関との協議を基に、現在運用中の「麻生区市民活動団体検索システム」のデータベースを活用しながら、将来的に設置を予定している「地域人材コーディネーター」の活動環境の整備を図る。	【地域支援担当】区主催の認知症サポーター養成講座を10月31日に実施し88名の受講、認知症サポーターフォロー講座を12月10日に実施し51名が受講した。また認知症キャラバンメイト連絡会を6月27日に実施し、認知症に関する普及啓発等を行うボランティアの育成を行った（12名参加）。 【生涯学習支援課】識字ボランティア研修（10月～12月）、保育ボランティア研修（11月）、生涯学習相談員養成講座（10月～11月）を実施。地域人材を市民活動等につなげる取組として、関係各課、関係機関との協議を基に、現在運用中の「麻生区市民活動団体検索システム」のデータベースを活用しながら、将来的に設置を予定している「地域人材コーディネーター」の活動環境の整備を図る。
			11	地域課題解決につなげる地域人材の育成	地域ケア推進担当 地域支援担当	区民が主体となり「地域づくり」や「地域課題解決」ができるよう、ワークショップ等を実施し地域活動の担い手を育成する。	地域包括支援センターが主催し、町会役員や民生委員等地域住民や関係者が参加する「地域ケア圏域会議」にて、地域自己診断ツール「ちいきのちからシート」を活用し、地域の現状や課題を共有し、地域活動に繋げるきっかけ作りに取り組んだ。平成30年度は13回（12地域）実施。地域資源の掘り起こしをしたことにより、夏祭りが復活したり、町会とおやじの会が繋がり、地域人材の発掘に繋がった地域があった。
			12	すくすく子育てボランティア事業	地域支援担当	乳幼児健康診査や育児相談において、子どもが安全に、また保護者が安心して参加できるように、子どもの保育や見守りをするボランティアを育成する。	乳幼児健康診査や育児相談等において、子どもの安全確保や保護者が安心して事業に参加できるように職員・ボランティア含めて連絡会を3回実施した。また事業後の振り返りを行い、ボランティアの育成を行っている。
		活2 動の地域福祉活動を担う人材の	13	食生活改善推進員・配食等ボランティアへの活動支援	地域支援担当 衛生課	地域の健康づくりボランティアとしての食生活改善推進員の活動や、配食、会食ボランティアの活動が、より効果的に行えるよう食品衛生や栄養面の情報を提供したり、学習会や打ち合わせ会等支援する。	【地域支援担当】地区に分かれての食生活改善推進員の活動においては、学習会（月4回）や役員会（月1回）で、地域で食育活動を行うために必要な食に関する情報提供や調理実習の支援を行った。また、3月5日に配食・会食ボランティアを対象とした講習会を実施した（9名参加）。 【衛生課】配食等ボランティア活動を行う団体を対象に衛生講習会を実施し、安全で衛生的な活動の実施を支援している（平成31年3月までに1回39名参加）。
			14	あさお運動普及推進員の会への支援	地域支援担当	地域での活動がより効果的に行えるよう、学習会や打ち合わせ会等に保健福祉センターの専門職が支援を行う。	毎月の定例会の会場提供及び運営支援、かがやいて麻生ストレッチ体操教室運営支援、地域活動（公園体操ボランティア、高齢者や幼児を対象とした出張ボランティア）の連絡調整を行った。
			15	学生ボランティアの活動促進	地域ケア推進担当 地域支援担当	麻生区近隣大学の学生を対象に、大学の専門性を活かしたボランティアとして地域活動へ参加することを促進し、地域福祉活動の担い手の育成を推進する。	近隣大学の学生（現在は田園調布学園大学のみ）を対象として、区内で開催されている認知症カフェやサロン、公園体操等（約30団体）に約110名のボランティア派遣を行うなど、ボランティア活動を促進する環境づくりを行った。

※網掛けが付いているものは、重点項目としている取組です。

基本目標	基本方針	基本施策	取組No.	取組名	関連する部署	取組内容	平成30年度実施状況（平成31年3月末時点）
2 区民本位の福祉サービスの提供	1 区民が利用しやすい相談支援体制の充実を図ります。	の1円滑な運営機能	16	保健福祉窓口機能の向上	全課	ていねいな対応と幅広い業務知識で来所者を的確な窓口案内にできるよう、スキルの向上に努める。また、案内先への移動を容易にする環境の整備を進め、各課窓口から専門相談担当や他部署へのスムーズな連携を図る。	来庁者や電話対応等、職員一人一人の丁寧な対応に努め、適宜訪問や家族支援等を実施している。窓口での相談においては、混雑しがちな課では発券機を導入し待ち人数が分かるようにしている。他課も関係するような相談においては、一義的に受け止め、必要に応じて早期に適切な課へ案内をし、スムーズな連携を行っている。案内先への移動をわかりやすくするため、窓口にはフロアガイドを用意し、それを見せながら案内をしている。状況に応じて他課の窓口まで付き添って案内をしている。
		保健・福祉情報の発信と充実	17	さまざまな媒体を用いた保健福祉に関する情報発信	全課	各所管部署からの地域福祉に関する様々な情報（高齢者・障害者、子ども、子育て関連等）を提供する。また、情報発信する際には、事業に応じ様々な媒体を活用し、幅広く周知する。	事業・対象者に応じて、市政だより・区ホームページ・かわさき子育てアプリ・川崎市地域包括ケアシステムポータルサイト等を活用し、各種イベントや健診、相談窓口等について、広く市民に情報発信を行っている。
			18	子育て情報の発信	地域ケア推進担当 保育所等・地域連携 衛生課 児童家庭課	子ども、子育てに関連する様々な情報について、冊子を発行したり、区役所や区内企業にある情報コーナーに掲示することで、幅広く子育て情報を共有できる環境・体制を作る。	【地域ケア推進担当】麻生区の子育てに関する情報をまとめたガイドブック「きゅっとハグあさお」と「麻生区ちびっこおでかけMAP」の2018年版を発行した。区役所や企業にある「こども情報コーナー」に子どもに関する各団体のイベント情報等を掲示し、またアプリやSNS等も利用することで、より広く市民に周知した。 【保育所等・地域連携】区内の各保育園で実施している地域子育て支援事業について、カレンダー形式で紹介する「はばだけあさおっこ」や、「ちびっこおでかけMAP」を作成・配架し、地域の子育て世帯を支援している。 【衛生課】「あかちゃんとスマイルすまい」を発行し、両親学級等において住まい方に関する啓発を実施している。 【児童家庭課】パンフレットスタンドを1台増やすとともに、スタンド表示の工夫や新着パンフレットの設置を目立たせ、来所する保護者が欲しい情報を速やかに手に入れられるようにしている。
		専門分野の相談支援体制の充実	19	こども相談窓口の充実	地域支援担当	地域のすべての子どもが心身ともに健やかに育ち、その持てる力を最大限に発揮できるよう、育児や発達に関する悩み、児童・生徒の養護、虐待、不登校、いじめ等の問題に対して、保健師、子ども教育相談員、家庭相談員等が、関係機関と連携を取りながら支援する。	児童相談所をはじめ、児童家庭支援センター、地域療育センター、保育園、学校等様々な関係機関と協力してケース支援を実施した。 児童家庭支援に関わる職員のスキルアップのため、2月に保護者の精神疾患をテーマにしたスーパーバイズ研修を実施した。
			20	特別支援の必要のある児童や家庭に対する支援体制の充実	地域支援担当 高齢・障害課	発達の遅れが疑われたり、親子関係がうまく結べない児童や家庭に対して、専門職が対応する相談や関わり方を学ぶ教室を実施する。	【地域支援担当】多機関、多職種と連携協力し、支援を必要とする児童や家庭を対象とした、子どもの発達を促し確認する場としての教室を36回実施し、また、幼児相談は対象を222人にして実施した。その中で子どもの発達や育児についての不安が相談できる専門機関を紹介するなど、参加者へ対応を行った。 【高齢・障害課】手当等の申請時など窓口で情報提供を行っている。
			21	知的障害者・身体障害者・精神障害者の専門相談	高齢・障害課	専門機関、相談支援センターと連携して、障害者とその家族が地域で安心して生活を送ることができるよう、面談やケースカンファレンスを通して支援する。	知的障害者担当のケースワーカーは、特別支援学校等の卒業予定者の進路の相談支援や、その他知的障害者の生活全般の支援にあたっている。また、身体障害者担当のケースワーカーは月40件程の手帳交付などを通じ、ヘルパー利用や福祉用具の導入などの専門相談支援にあたっている。障害者福祉に係る制度の改正や多様な対象者のニーズに適切に対応できるよう積極的に研修等に参加している。
			22	一般精神保健相談・老人精神保健相談	高齢・障害課	心の健康・病、認知症等について、市民が早期に適切な精神保健福祉の支援を受けられるよう、精神科医師による専門的な相談を実施する。	精神科医による専門的な相談を受ける場として実施している。一般精神保健相談については月1回実施し、H30年度の相談件数は10件。
			23	高齢者・障害者（児）虐待相談支援体制の充実	高齢・障害課	地域包括支援センターや基幹相談支援センター、関係機関と連携し、相談や通報への迅速な対応・支援を行う。また、虐待傾向の分析、関係機関向けの勉強会の実施や普及啓発等、虐待の防止及び早期発見・早期対応に向けた取組を行う。	地域包括支援センターや基幹相談支援センター、麻生警察署との連携を密に対応し、相談や通報への迅速な対応・支援を行っている。昨年度の通報件数は、障害者に対する虐待（疑いも含む）が7件、うち虐待ありと判断されたものは5件、高齢者に対する虐待（疑いも含む）が34件、うち虐待ありと判断されたものは15件だった。 虐待の防止及び早期発見・早期対応に向けた取組を行なっている。高齢者虐待傾向の分析を行い地域包括支援センター等関係機関向けの研修準備を進めた。
			24	成年後見制度への対応の充実	高齢・障害課	地域包括支援センターや関係機関と連携し、制度の普及・啓発、利用支援を行う。また、親族による申立が困難な方について市長申立を行うなど、認知症高齢者や障害者（児）が安心して生活していくための支援体制を構築する。	虐待対応の中で成年後見の利用が必要と思われるケースに対し、地域包括支援センターと連携し利用支援を行っている。司法書士会に協力を依頼し、本人申し立てや親族申し立ての際の支援を行う。必要な場合は市長申し立てを進めていく。（30年度中市長申し立て完了件数1件）
			25	感染症患者等の支援体制の充実	衛生課 地域支援担当	感染症患者及びその家族が地域での療養や療養後の健康管理に際して、地域で生活がしやすいよう、個別に適切な支援体制を検討し推進する。	【衛生課】感染症患者及びその家族への疫学調査や医療・療養支援を丁寧に実施し、患者等の生活状況に応じて行政間・地域団体と連携しながら支援を実施している。

第5麻生区地域福祉計画進捗状況

※網掛けが付いているものは、重点項目としている取組です。

基本目標	基本方針	基本施策	取組No.	取組名	関連する部署	取組内容	平成30年度実施状況（平成31年3月末時点）		
2	区民本位の福祉サービスの提供	地域の様々なニーズに応じたサービスを提供します。	1	専門性・個別性の高い相談・講座等の提供	26	精神保健福祉に関する制度・サービス等の普及啓発	高齢・障害課	精神保健福祉に関する情報を発信し、適切に相談につながるよう普及啓発する。また、家族の理解を深めるための精神保健講座の開催や、家族会運営の支援、制度利用の相談支援を行う。	日常の相談の場面を通じ、医療や相談につながるように支援をしている。また、家族の理解を深めるための家族講座やアクション講座を平成31年2月に実施した。
					27	認知症高齢者介護教室の実施	地域支援担当 高齢・障害課	介護者が疾病を理解し、対象者に合った対応ができるよう支援するとともに、介護者同士での交流により精神的負担の軽減を図る。また、関係機関との連携により、地域での支え合いをめざす。	【地域支援担当】平成30年度は、隔月で年6回実施した。認知症の方にはミニデイケア、介護者には座談会の講師として例年依頼していた精神科医に加え、新たに歯科医、認知症看護認定看護師へも依頼し、疾病の理解や介護方法について学んだ。認知症家族会「はなみずきの会」と連携協力のもと家族支援を行った。 【高齢・障害課】窓口での相談時に情報提供を行っている。
					28	介護予防に関する相談の実施	地域支援担当 高齢・障害課	地域での活動や区民の身近なところで、介護予防に関する相談に応じ、それぞれの状況に合った情報を提供する。	【地域支援担当】電話や面接、訪問により随時相談を実施している。状況に応じて、老人いこいの家で実施している介護予防事業「いこい元気広場」や区内の介護予防グループなどを紹介した。 【高齢・障害課】介護保険認定申請等の窓口での相談時に情報提供を行っている。
					29	社会復帰相談指導事業	高齢・障害課	精神障害者を対象とした集団活動を通して、各々の課題に寄り添った支援を行い、自立と社会復帰、社会参加の促進を図る。	デイケアを月3回実施しており、卓球・料理・書道・ヨガなどのプログラムの他に、栄養士を招き食事と健康の講義をするなど、生活や健康に役立つ内容を提供している。メンバー間の交流や、自己表現が出来る場になっている。
					30	感染症・食中毒予防の普及啓発の実施	衛生課 地域支援担当	インフルエンザ、感染性胃腸炎及び食中毒等の健康被害に係る予防対策の普及啓発を行う。高齢者福祉施設、保育所等社会福祉施設への集団発生予防対策を周知し、講習を実施する。また、LGBT等性の多様性についての普及啓発や学校等でのHIV等性感染症講習会を行う。	【衛生課】「今、何の病気が流行しているか!」の発信や感染症の発生動向を考慮したリーフレット等を用いた普及啓発を実施。また、高齢者・乳幼児等社会福祉施設を対象に講習会を2回開催した。また、性感染症対策として世界エイズデーに併せて区役所2階ホールでの展示等で性の多様性に関する啓発を実施。
					31	子育て支援事業（父親向け育児講座、親子の遊びタイム）の実施	保育所等・地域連携	育児講座や遊びの会の中で、子育てのヒントを提供したり、親子のふれあいを促進する遊び等を紹介するとともに、子育て家庭同士の交流を促進し、地域の育児力を高める。	「新米パパ＆ママのための連続講座」については、3回連続講座を2回実施し、計216名の参加があった。育児講座や先輩パパを交えた保護者同士の交流、講師を招いてわらわら遊びの会等を実施した。また、「親子のあそびタイム」は、(株)イオンスタイル新百合ヶ丘店との連携事業として、毎月1回、区内の民間保育園による遊びの提供により、地域の親子のふれあいの場となった。
32	就学前児童交流会 GO・GOキッズ～もうすぐいちねんせい～の実施	保育所等・地域連携	区内在住の翌年度小学校に入学予定の子どもと親を対象に、交流会を実施することで、子育て家庭同士の交流を促進し、入学前の不安解消に繋げる。	11/25、1/19の2回実施し、計57名の参加があった。					
3	「ひと・もの・場」をつなぐ自助・互助の仕組み	1	保健福祉課題の共有化と地域ぐるみの対応	33	麻生区地域自立支援協議会の推進	高齢・障害課	麻生区内の障害者福祉関係機関のネットワーク構築や、障害者（児）への支援に関する協議や調整を行い、障害者の地域生活や就労に対する支援を推進する。	企画運営会議（月1回）並びに定例会議（月1回）により協議会を運営している。また、協議会には参加者が児童委員会、日中活動委員会、災害委員会、相談支援委員会の4つの委員会に加入し、地域課題の抽出を行っている。	
				34	地域包括支援センターの機能強化	地域支援担当 高齢・障害課	運営協議会の開催により、地域包括支援センターの適切な運営、公正・中立性の確保についての審議や、活動の実態把握、課題等の検討を行い、支援体制の充実を図る。また、区内7カ所の地域包括支援センターと定期的な連絡会を実施し、情報の共有化を図り、連携の強化と活動の支援を行う。	【地域支援担当】運営協議会を年2回実施した。第1回目は平成30年8月29日（水）に実施し、地域包括支援センターの適正な運営や公正・中立性の確保についての審議・検討、円滑な運営の支援について討議し、第2回目は平成31年2月19日（火）に実施し、地域包括支援センターの具体的な業務紹介や活動実績報告を行った。また、毎月1回地域包括支援センター連絡会を開催し、業務の検討・情報交換を行い、ワーキングチームによる「あさおももの忘れガイドマップ」を作成し、50か所以上の関係機関に配布等協力依頼を行った。 【高齢・障害課】地域包括支援センターの運営ヒアリングに参加し、運営協議会においてセンターの適切な運営、公正・中立性の確保についての審議や、活動の実態把握、課題等の検討をおこない、支援体制を整える。地域包括支援センターとの定期的な連絡会に出席し、情報の共有化を図り、連携の強化と活動の支援を行う。	
				35	地域ケア推進会議の実施	地域ケア推進担当 地域支援担当	各地域包括支援センターで抽出された地域の課題について、他職種、他機関で検討しながら、地域支援ネットワークの構築を推進する。また、抽出した課題を政策形成に繋げる方法や、成果を地域にフィードバックしていく方策も検討する。	各地域包括支援センターごとに個別ケア会議を行い、個別ケア会議で出た地域課題を吸い上げながら、地区支援担当の保健師と包括が共同で地域ケア圏域会議を行い、地域づくりを行っている。また、地域ケア推進会議では地域ケア圏域会議で抽出された区の課題について、多職種・多機関により検討し、課題解決のための地域支援ネットワークの構築を行っている。平成30年度は、生活支援の担い手不足が課題になっていることから、「保険外サービスの取りまとめと情報発信の検討」をテーマに8月28日（火）、11月27日（火）、2月26日（火）と年3回にわたり地域ケア推進会議を実施した。	
36	児童虐待相談支援体制の充実	地域支援担当	子どもの虐待の早期発見や適切な保護のために、地域の関係機関が子どもやその家庭に関する情報や考え方を共有し、適切に対応していく体制を整えて、連携を強める。	主任児童委員が主催して5月から7月の期間中に区内全小中学校を訪問し、情報交換や共有を行った。また要保護児童対策地域協議会実務者会議を9月7日（金）、1月28日（月）の年2回実施。個別支援会議は随時実施した。					

※網掛けが付いているものは、重点項目としている取組です。

基本目標	基本方針	基本施策	取組No.	取組名	関連する部署	取組内容	平成30年度実施状況（平成31年3月末時点）
3 「ひと・もの・場」をつなぐ自助・互助の仕組みづくり	1 地域ぐるみで地域福祉課題の解決に取り組みます。	1 保健福祉課題の共有化と地域ぐるみの対応	37	こんにちは赤ちゃん訪問	地域支援担当	赤ちゃんの誕生を祝い、子育て支援の情報を届ける訪問活動を、地域と行政が協働して進めることにより、子育て家庭の孤立を防ぎ、地域とのつながりを持てるようにする。訪問活動に携わる訪問員は、地域から募集し養成する。	子育て支援の情報発信や子育て家庭の孤立や育児不安などを軽減し、地域とのつながりが持てるよう各家庭への訪問活動を行なった。訪問員は地域から募集し、年1回養成講座（1月25日・多摩区と合同）、年1回フォローアップ研修会（9月28日）を実施した。
			38	認知症にやさしいまちづくりの推進	地域支援担当 高齢・障害課	認知症への理解を促進し、軽度認知障害者や認知症高齢者、家族を地域で支え合う仕組みづくりを推進する。また、認知症ケアを効果的に推進するため、多様な主体を構成員とした認知症ケア推進会議を開催し、情報を提供し共有する。	【地域支援担当】認知症キャラバンメイト、認知症サポーター、関係機関・団体、行政を構成員とした麻生区認知症ケア推進会議（あさおオレンジプロジェクト）を年6回実施し、情報の共有をしながら認知症施策の方向性を検討した。プロジェクトのメンバーの意見を取り入れ、協働しながら講座やイベント等を実施した。 ・市民向け認知症サポーター養成講座（10/31、88名参加）、認知症サポーターフォロー講座（12/10、51名参加）、及びキャラバンメイト連絡会（平成30年6月27日、12人参加）を実施した。 ・初期認知症の人が利用できる地域情報を盛り込んだ「あさおもの忘れガイドマップ」を関係機関と協力しながら5000部作成し、50箇所の医療機関、いこいの家などに配布した。 ・RUN伴（認知症の人と一緒に走ってたすきをつなぐイベント）で認知症カフェの開催やパネル展示、相談コーナーを設置し、チラシを1000枚配布した。 ・認知症の早期対応を目的とした認知症訪問支援事業チーム員会議を年6回偶数月に実施し、支援対象者を医療受診、介護サービス利用に繋げた。 【高齢・障害課】認知症訪問支援事業チーム員会議に参加し、軽度認知障害者や認知症高齢者、家族を地域で支え合う仕組みづくりを推進している。あさおオレンジプロジェクトの取組に参加している。
			39	子育てフェスタの開催	企画課、生涯学習支援課 地域ケア推進担当 地域支援担当 保育所等・地域連携	子育て関連施設や地域の団体等が催しを行うことで、子育て世代に地域の団体やその活動等情報を提供するとともに、地域の団体とのつながりや子育て中の親同士の交流の機会をつくる。	参加団体による企画検討会、全体調整会を経て、子育て世代のための情報提供や親子のふれあいの場として平成30年9月15日（土）に開催（5回目）した。86団体（地域の子育て支援団体、区内の保育所・幼稚園等）の参加・協力があつた。
			40	社会福祉法人等の地域公益活動の推進	地域ケア推進担当 地域支援担当	社会福祉法人等と連携し、様々な地域資源を活用することで地域の課題を解決したり、地域公益活動を推進する。	区内の2法人で、デイサービスの送迎以外の時間帯の空き車輛を使い、地域の運転ボランティアと連携して、高齢者をサロン等に送迎する取組を進めている。また、区内の関係者が連携する仕組みとして、あさおサロン送迎等推進会議をH29年度に発足し、H30年度の第1回の会議を9月に、第2回会議を2月に開催した。
			41	災害対応力の強化支援	危機管理担当 高齢・障害課 地域支援担当	地域の災害対応力の強化を図るために、自主防災組織の活動支援や、避難施設の状況把握・運営支援等を行う。また、区民の防災への認識を深めるために情報を提供し、普及啓発する。	【危機管理担当】自主防災組織に対する自主防災組織活動助成金（H30年度74件交付）や、防災資器材購入補助金（H30年度35件交付）の交付を通じた活動支援を行った。また区内25カ所の指定避難所における年1回開催の避難所運営会議にて、避難所の運営について検討と周知を図った。さらに「ぼうさい出前講座」制度にて、住民の集会等に区の危機管理担当が参加し、より多くの住民に対して、防災知識の普及啓発を行った。 【高齢・障害課】災害時要援護者避難支援制度をより多くの区民に周知し、危機管理担当との情報共有を密に行っていく。 【地域支援担当】子育て世代に向けて、月2回の離乳食教室で災害時の対応に関する資料を配布し説明を行った。
		2 要支援者等へのサポートの充実	42	麻生区徘徊高齢者SOSネットワーク（あさおSOSネットワーク）の充実	高齢・障害課	徘徊することにより生命に危険が及び可能性のある高齢者を早期に見発見できるよう、関係機関・近隣自治体と協力しながら、高齢者の安全確保と家族への支援を行う。また、迅速な発見保護に努めるため、事前登録の促進を図る。	徘徊が発生した場合に情報が正確に伝達できるように地域包括支援センター等への情報提供の方法をFAX送信からメール送信に変更した。
			43	災害時要援護者に対する制度の普及啓発	危機管理担当 高齢・障害課	災害時要援護者避難支援制度をより多くの区民に周知できるよう、町内会・自治会、自主防災組織、民生委員児童委員協議会等と連携を図りながら普及啓発を行う。	【危機管理担当】自主防災組織をはじめとする地域支援組織を対象に、災害時要援護者避難支援制度の説明会を実施した。 【高齢・障害課】災害時要援護者避難支援制度をより多くの区民に周知できるよう、地域ケア圏域会議などで制度の説明をおこなった。また、窓口での登録の際に丁寧な説明を心がけ町内会・自治会、民生委員に協力していく。
			44	ひとり暮らし等高齢者見守り事業	高齢・障害課 地域支援担当	ひとり暮らし等高齢者の安否確認と話し合いの機会を増やすことにより、地域社会で高齢者が安心して日常生活を送ることができるよう支援する。民生委員児童委員の協力により、生活実態の把握と事業対象者の選定を行うための実態調査及び訪問による見守りを実施する。	【高齢・障害課】8月と9月に民生委員協議会に事業説明した。新たに75歳に到達した一人暮らし等高齢者、転入してきた76歳以上の高齢者合計1,235人を9月から12月末までの間に訪問調査を実施した。介護サービス等の利用がなく引きこもりがちな高齢者を見守り対象として、30年度新たに2名が対象となり、3月末現在67名の対象者に対して民生委員が訪問により見守りを行う。 【地域支援担当】関係機関からの相談等に応じ、必要な支援を行った。

第5麻生区地域福祉計画進捗状況

※網掛けが付いているものは、重点項目としている取組です。

基本目標	基本方針	基本施策	取組No.	取組名	関連する部署	取組内容	平成30年度実施状況（平成31年3月末時点）
3 「ひと・もの・場」をつなぐ自助・互助の仕組みづくり	1 地域に取り組む取り組みで地域福祉課題を解決します。	2 要支援者等へのサポート	45	麻生区高齢者見守りネットワーク事業	高齢・障害課 地域支援担当	地域に密着し、高齢者と接することの多い事業者と連携することにより、高齢者の異変を早期に発見し、必要な支援を行うなど、地域社会全体で高齢者を見守る体制を確保し、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる地域づくりをめざす。また、協力事業者及び関係機関による情報交換会を開催し、連携の強化を図る。	【高齢・障害課】平成30年度の情報交換会・連絡会を平成31年2月27日に開催した。参加者39名。参加事業所13か所。市の見守りネットワークに参加している事業所で麻生区の連絡会に参加したことのない事業所8か所に連絡会の参加をよびかけ、新たに5か所の事業所が出席した。 また、平成30年度は5件の通報があった。 【地域支援担当】協力事業者からの通報に迅速に対応し、必要な支援を行った。
			46	川崎市地域見守りネットワーク事業	地域ケア推進担当	要援護者等の早期発見を目的に、地域の民間事業者と川崎市で協定を結び、見守り事業を展開している。	「地域見守りネットワーク事業」は、孤立死等の恐れのある世帯を行政の適切な支援につなげ、地域福祉の向上を図るため平成24年度から始まった。効果的なネットワーク構築のため、協力民間事業者の拡充に努めている。事業者からの通報を受け、当該世帯への安否確認等区職員が必要な対応をしている。平成30年度は5件の通報があった。
	2 地域の支え合いのネットワークづくりを支援します。	1 地域福祉を支える関係者の支援とネットワークの強化	47	麻生区こども関連ネットワーク会議による連携	地域ケア推進担当	子どもに関わる機関・ボランティア団体などで子ども・子育ての現状や課題を共有し、相互で連携を取りながら、課題解決に向けて全体で、又はそれぞれの立場でできることに取り組む。	全体会議を年に3回（5月、10月、H31年2月）開催し、現状や課題を共有し、委員相互の連携を強めた。また、区民向けに「インターネットセーフティ講座」を7月に開催し20名の参加者があった。同じく7月に子育てサークル交流会を開催し、区内の自主グループ同士の交流・連携を支援したほか、委員の情報交換の場として10月に研修を実施した。
			48	民生委員児童委員活動の支援	地域ケア推進担当	区内6地区にある民生委員・児童委員協議会の運営と地域活動等を支援する。麻生区民生委員・児童委員協議会事務局である麻生区社会福祉協議会と連携し、活動しやすい体制づくりに取り組む。	各地区民生委員児童委員協議会長及び麻生区社会福祉協議会と連携し、各会の円滑な運営の支援や負担軽減を推進し、活動しやすい体制づくりに取り組む。
			49	麻生区社会福祉協議会との事業計画及び役割の調整	地域ケア推進担当	麻生区社会福祉協議会の地域福祉活動計画と行政の地域福祉計画の連動により、個々の取組が、区民にとっても参加・利用しやすいものとして進められるよう、協議・連携体制を継続していく。	「第5期麻生区地域福祉計画」（平成30年度～32年度）と、麻生区社会福祉協議会が推進している「第3期麻生区地域福祉活動計画」（平成27年度～32年度）とが連携・補完し合うことができるよう麻生区社会福祉協議会と調整する。麻生区社協の会議や講演会に参加する等、関係強化・課題の共有を進めている。
			50	あさお福祉まつりの開催	地域ケア推進担当	区内福祉団体・ボランティア・福祉施設等の活動紹介、作業所等製品の展示・販売、各種福祉体験の場の設定などを通じて、区民の地域福祉についての理解と関心を深める。	H30年11月11日（日）に開催。区内の福祉の実状や、ボランティア活動で福祉に貢献している区民のことを広く知ってもらい、体験学習等を通じて、より具体的に福祉についての理解と関心を深めてもらうことを目的として、「あさお福祉まつり」を開催した。福祉活動紹介・物品販売・福祉体験の場の提供等を実施した。75団体参加。来場者数約6,900人。
51	在宅医療に関する普及啓発の実施	地域ケア推進担当 地域支援担当	在宅医療に関する講演会等を開催し普及啓発する。また、在宅療養推進協議会と連携することで在宅療養環境を整備し、医療に関する自助・互助の仕組みづくりを促進する。	区民の在宅医療に関する意識づけを進めるため、麻生区在宅医療推進協議会と連携し、平成31年1月に「地域包括ケアシステム講演会～認知症と嚥下障害～」を実施（60名参加）、3月に「市民のための在宅医療フォーラム 認知症と誤嚥を知ろう」（310名参加）を開催した。			

## 第5期各区地域福祉計画（平成30～32年度）の評価について

健康福祉局地域包括ケア推進室

### 1 これまでの評価について

川崎市地域福祉計画の策定・実施状況の点検・見直しについては、これまでも、学識経験者や福祉関係団体の代表者等を委員とする「川崎市社会福祉審議会地域福祉専門分科会」において実施してきました。

各区地域福祉計画については、市の計画を基本としながら、地域の実情に応じて、区独自の取組を中心に計画を策定しており、主な取組を中心に各区地域福祉計画推進会議（会議名は、別名称の区もあり）において、計画の策定・実施状況の点検・見直しを行ってきました。

### 2 第5期川崎市・各区地域福祉計画（平成30（2018）～平成32（2020）年度）の評価について

第5期計画期間においては、市計画の評価とともに各区地域福祉計画推進会議における区計画の点検を踏まえて、川崎市社会福祉審議会地域福祉専門分科会において計画の進捗状況を報告し、PDCAサイクル（右図参照）により、地域福祉に関する状況把握、地域福祉施策の進行管理、課題の検討・評価等を行います。

なお、市計画については、総合計画における事務事業点検を活用しながら、区計画とあわせて一括で評価を行い、計画の進行管理を継続して行うことにより、第6期計画（令和3年～令和5年度）の策定につなげます。

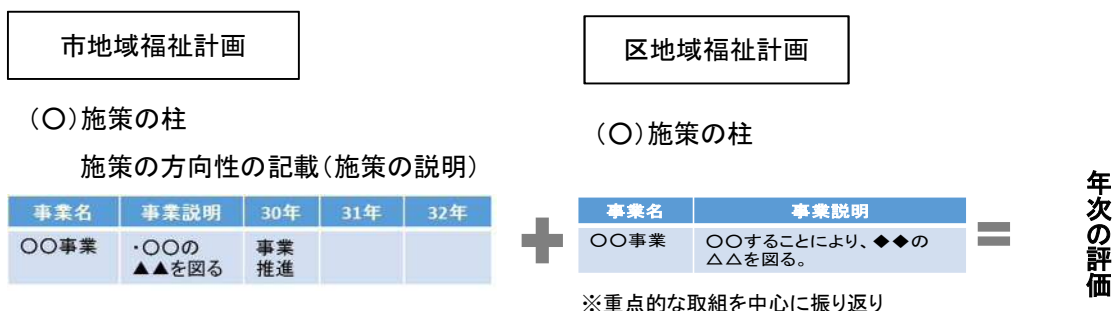
#### 【PDCAサイクル】



#### 【具体的な評価の手順】

- (1) 市計画については、国の地域福祉計画策定ガイドラインを踏まえて、関連する事務事業ごとに計画書へ記載していることから（下図参照）、川崎市総合計画と整合を取り、地域福祉計画の評価の際に、毎年実施する総合計画の中間評価の情報を材料として活用します。
- (2) 区計画については、行政が実施する事業とともに、地域での活動について、行政としてどのように支援が図られたかを評価することとし、区計画の評価を包含して、市計画と一括で川崎市社会福祉審議会地域福祉専門分科会において評価することとします。

- (3) なお、具体的な評価については、①各区の重点的な取組を中心に、各区地域福祉計画推進会議で振り返りを行うとともに、②総合計画とリンクした事務事業ごとの客観的指標による評価を行い、③基本目標を中心に、主観的な指標を加味して、内容を複合的に概観し、川崎市社会福祉審議会地域福祉専門分科会で総評を加え、毎年評価を行うこととします。



※なお、市計画につきましては、上記の手法を用いて、平成 29 年度分をプレ評価として、実施しています（別添資料参照）

### 3 区計画の評価の様式について

区計画については、各区の重点的な取組を中心に、地域福祉計画推進会議で別添様式により、振り返りを行います。様式の中で、「重点的な取組」については、計画策定時に抽出した取組をベースに記載しています。

「取組状況」につきましては、関連する事務事業があれば、総合計画の事務事業点検の内容を材料として活用します。

「取組状況に対する評価」につきましては、案として、「取組状況」を基に一旦、事務局で記載しております。この内容については、この会議で御意見いただきたい。

「事業の達成度」、「施策への貢献度」については、それぞれ以下のような基準となっております。

#### 【事業の達成度】

- 1 目標を大きく上回って達成
- 2 目標を上回って達成
- 3 目標をほぼ達成
- 4 目標を下回った
- 5 目標を大きく下回った

#### 【施策への貢献度】

- A 貢献している
- B やや貢献している
- C 貢献度の度合いが薄い。

また、「特筆すべき取組を含めた総評」につきましても、実績等を基に、事務局で記載しております。この内容についても、この会議で御意見いただきたい。

なお、本日の議論を踏まえて、今回の様式を健康福祉局地域包括ケア推進室に提出し、地域包括ケア推進室で、市計画と一括して取りまとめ、川崎市社会福祉審議会地域福祉専門分科会に、市・区の地域福祉計画の評価として、御審議いただき、確定してまいりたいと考えております。



# 第5期 麻生区地域福祉計画(平成30～32年度) 中間評価(平成30年度)

資料 2 - 2

※「重点的な取組」には、区計画基本施策の重点項目を記載し、その中から具体的な取組を抽出し、「取組状況」に記載しました

重点的な取組	取組状況	取組状況に対する評価	事業の達成度	施策への貢献度
1 地域福祉活動を担う人材の育成の推進	・地域自己診断ツール「ちいきのちからシート」を活用した地域課題可視化のためのワークショップ等を13回実施 <<11「地域課題解決につながる地域人材の育成」>>	・町会役員や民生委員等地域住民が参加する会議にて「ちいきのちからシート」を活用した。12地域で計13回実施し、165人の参加があった。それぞれの地域住民が、地域の課題に自ら気づき、活動を始めるきっかけとすることができた。 ・「ちいきのちからシート」による地域資源の掘り起こしを契機とし、夏祭りが復活した地域や、地域人材の発掘につながった地域があった。	3 目標をほぼ達成	A 貢献している
2 地域福祉活動を担う人材の活動の推進	・近隣大学の学生を対象とし、区内の対象31団体に対し、110名程度のボランティア派遣を実施 <<15「学生ボランティアの活動促進」>>	大学の専門性を活かしたボランティアとして、学生が認知症カフェ等の地域活動に参加することを促進し、地域福祉活動の担い手の活動の推進につながった。	3 目標をほぼ達成	A 貢献している
3 専門分野の相談支援体制の充実	・児童家庭支援に関わる職員向け研修を実施 ・支援を必要とする児童や家庭を対象とした教室等を36回、幼児相談は対象を222人にして実施した <<19「こども相談窓口の充実」>> <<20「特別支援の必要のある児童や家庭に対する支援体制の充実」>>	・児童家庭支援に関わる職員のスキルアップのための研修は、保護者の精神疾患をテーマに実施した。職員向け研修を実施することで、支援困難な対象者の課題と解決方法を職員全体で共有し、支援体制の充実につながった。 ・子どもの発達を促す遊びの紹介や発達の確認の場としての多職種と連携した教室等を実施する中で、参加者への個別対応を行った。子どもの発達や育児不安に関する専門機関を紹介することで、相談者を支援につなげることができた。	3 目標をほぼ達成	A 貢献している
4 保健福祉課題の共有化と地域ぐるみの対応	・麻生区認知症ケア推進会議を年6回開催 ・認知症サポーター養成講座88名、サポーターフォロー講座51名、キャラバンメイト連絡会12名の参加 ・認知症の人と一緒に走りたすきをつなぐイベント「RUN伴(ランとも)」実施に伴う応援 ・初期認知症の人向けの地域情報パンフレット「あさおもの忘れガイドマップ」5,000部の作成・配布 ・認知症訪問支援事業チーム会議を年6回実施 <<38「認知症にやさしいまちづくりの推進」>>	・認知症キャラバンメイト、認知症サポーター、関係機関・団体、行政を構成員とする麻生区認知症ケア推進会議の開催により、情報・課題を共有した。 ・認知症関連講座の開催と「RUN伴」応援チームを発足させ地域全体で盛り上げた活動、及び「あさおもの忘れガイドマップ」の作成・配布を通じ、認知症への理解を促進し、地域で支え合う仕組みづくりを推進した。 ・認知症訪問支援事業により、軽度認知障害者や認知症高齢者の早期発見・早期対応を推進した。	3 目標をほぼ達成	A 貢献している
5 要支援者等のサポートの充実	・麻生区高齢者見守りネットワーク事業へ5か所の事業所が新規加入 ・参加事業所より5件の通報 <<45「麻生区高齢者見守りネットワーク事業」>>	平成30年度の情報交換会・連絡会に新たな5か所の事業所を加えた、全13事業所の参加があった。また、5件の通報に対し迅速に対応することで、見守りネットワークの強化及び要支援者のサポートの充実につながった。	3 目標をほぼ達成	A 貢献している





## 特筆すべき取組を含めた総評

「心が響きあう福祉のまち麻生～麻生区らしい地域包括ケアシステム構築をめざして～」という基本理念のもと、3つの基本目標における各取組を推進した。  
 ・「区民が主役の地域づくり」という目標に対しては、「1 地域福祉活動を担う人材の育成の推進」、「2 地域福祉活動を担う人材の活動の推進」における、区で独自に展開している各取組が、地域で受け入れられ、徐々に広まりを見せており、着実に推進が図られていると考えられる。  
 ・「区民本位の福祉サービスの提供」の各取組は、「3 専門分野の相談支援体制の充実」において各分野で充実させており、地域福祉の推進は一定程度図られているところであるが、取組の推進によって新たに見えてきた地域の複合的な問題に対し、各専門分野、支援機関、地域住民がより連携を強化し、課題解決にむけて検討をしていくことが重要と考えられる。  
 ・「『ひと・もの・場』をつなぐ自助・互助の仕組みづくり」における各取組(「4 保健福祉課題の共有化と地域ぐるみの対応」、「5 要支援者等のサポートの充実」)では、活動等に一定程度の参加者が得られているが、さらに地域における活動が活性化されるよう、今後も着実に取り組んでいくことが必要である。  
 以上のことから、地域包括ケアシステム構築に向け、今後も見守り・支え合いのネットワークづくりを意識しながら、区民と行政、関係機関等が連携し、各事業を推進していくことが必要である。

## 事業実施報告

事業等の名称	平成30年度「地域上映支援大学～まちに映画を届けよう～」
実施日時	平成30年10月6日(土)・13日(土)・20日(土)・27日(土) 11月3日(土)・17日(土) 全6回の連続講座 各回10時00分から12時00分の2時間
参加者数	21名(男性12名 女性9名)
実施場所	日本映画大学新百合ヶ丘キャンパス(麻生区万福寺1-16-30) 川崎市立麻生市民館(麻生区万福寺1-5-2)
目的・概要	地域包括ケアシステム構築の一環として、日本映画大学と連携し、シニア層の方を対象に、地域における映画上映会開催のための講座を実施しました。 本事業は、日本映画大学の機材やノウハウ等の資源を活用し、受講者が上映会開催の知識・技能の習得をとおり、地域の仲間や生きがいをつくったり、ボランティア等の地域活動に参加したりする契機となることを目的としています。
	 <p>▲第1回「地域にある劇場・芸術のまちづくり」</p>  <p>▲第2回「地域で映画を上映するということ」</p>  <p>▲第3回「映画の著作物の権利とは」</p>  <p>▲第4回「映写機のしくみを理解する」</p>  <p>▲第5回「上映の手引きⅠ：企画～実現にむけて」</p>  <p>▲第6回「上映の手引きⅡ：上映準備～投影の実践」</p>
ま と め	<p>受講者は終始、和やかな雰囲気のもと、楽しんで受講していました。回を重ねるごとに受講者同士の会話が増え、交流が進んでいきました。もともと映画好きな方や、上映活動に興味のある方が多かったのですが、各回講義、講師の話に感銘を受け、「実際に自分達も上映会を開催したい」という気運が高まりました。</p> <p>そのような流れを受け、映画大担当芦澤氏が上映会のための市民団体「地域上映支援センター」を立ち上げ、一部受講者が参加するなど、具体的な活動に結実しました。</p>

事業実施報告	
事業等の名称	平成30年度「大人のためのはじめてのコーラス教室」
実施日時	【練習】平成30年9月23日(日)、29日(土)、10月7日(日)、14日(日)、21日(日)、27日(土)、28日(日)、11月3日(土)、4日(日)、10日(土) 土曜日：16時～18時 / 日曜日：10時30分～12時30分 【発表会】11月11日(日) 10時～12時 【フォローアップ交流会】11月25日(日) 14時～16時
参加者数	30名(うち、3名は途中辞退) 男性7名 女性23名
実施場所	練習：昭和音楽大学北校舎 発表会：麻生市民館大ホール(あさお福祉まつり) フォローアップ交流会：麻生区役所第1会議室
目的・概要	新たにシニア層を対象とした生きがいつくり・健康づくり・地域づくり等を目的とした大学連携として、昭和音楽大学と共催という形で、9月～11月にかけて実施しました。 30名募集のところ約50名の参加申込があり、抽選となりました。
練習	 <p>音大北校舎を会場に、約2ヶ月間かけ、全10回の練習を行いました。選曲は、「いい日旅立ち」「少年時代」「明日があるさ」の3曲で、音大講師陣の質の高い指導により、回を重ねるごとにコーラスとして形となっていき、参加者の方も日々の成長の喜びや生活の充実を感じている様子が伺え、毎日の練習が楽しいという声が多々ありました。</p>
発表会	 <p>発表会は、あさお福祉まつりのアトラクションの一つとして、市民館大ホールにて先述の3曲を披露しました。大舞台での発表は久しくなかったからか、最初は緊張した面持ちでしたが、徐々に練習の成果を発揮し、素晴らしい発表となりました。終了後、感動で涙する方や、1つのことをやりきった表情の方がいるなど、参加者の今後の生きがいつくりのきっかけとなった印象がありました。</p>

<p>交 流 会</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div> <p>フォローアップ交流会では、第1部として本教室の振り返り、第2部として「支え合いの地域づくり」に向けてというテーマでグループトークをしました。</p> <p>第1部では、1人ずつ本教室の「修了証」をお渡しし、感想と本教室をきっかけにどのようなことをしていきたいかなど、お話をいただきました。</p> <p>第2部の冒頭では、地ケアの説明から始まり、アートセンター職員をお招きしての芸術関連ボランティア活動紹介や、昭和音大の各種教室・コンサートの案内、区役所関連施設（やまゆりや市民館など）の地域デビュー相談窓口のご案内をしました。</p> <p>その後、グループトークで、本教室の感想や今後どうしていきたいか、ざくばらんにお話いただきました。</p> <p>グループトーク後、参加者の方から「本教室の参加者で新しくグループを作って音楽活動をしませんか」との提案があり、多くの方が賛同しました。</p> <p>最後に発表会の撮影動画を視聴し余韻に浸り、終了としました。</p>
<p>ま と め</p>	<p>参加者アンケートでは、外に出ることを意識することや、今後の人生を考えるきっかけとなったり、また、新しいことへの挑戦だったり、来年度もぜひ参加したいという声を多くいただきました。</p> <p>新たな地域音楽活動グループについては、早ければ年明けに正式に結成、話し合いを行い、活動を始めることで調整が進まれています。</p> <p>本事業は初の試みでしたが、これらの内容で当初目的は達成することはできたと考えますので、来年度も大きな軸は「はじめてのコーラス教室」として実施する方向で考えています。</p> <p>発展要素として、今回参加された方や新たな地域活動グループとの「協働」も視野に入れ、より効果的な事業となるよう進めていきたいと思えます。</p>